

### 学びの環境の充実に向けて

四日市市のめざす子どもの姿を実現するためには、主体的・協働的に学ぶ意欲や態度の育成や時代の変化に対応した教育の推進など、「学びの質の向上」を図るとともに、それらを支える「学びの環境の充実」が重要である。

学校施設においては、以下の観点に基づき、学びの環境の充実を図っている。

- 計画的な改築や修繕による学校施設の長寿命化、施設機能の維持管理
- 多様な教育活動や新しい時代のニーズへの対応
- 安全・安心な教育環境の充実

施設の長寿命化や維持管理は、必要最低限の環境確保のための施設整備であり、これらにかかる経費が大半を占めている。

これらに加え、多様な教育活動や新しいニーズへの対応、安全・安心な教育環境の充実など、現状施設への付加価値をどのように整備していくのか、本市の学びの環境の充実の底上げを図るための優先順位や整備内容について精査する必要がある。

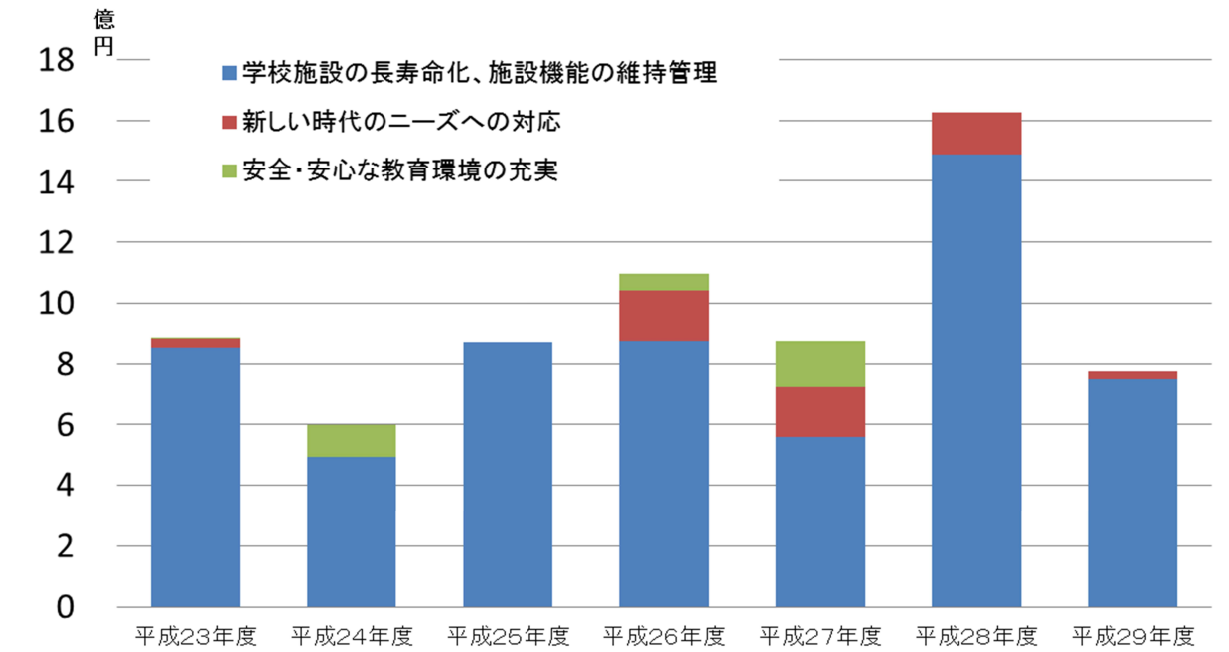
#### 1 現総合計画期間中のおもな取り組み

本市総合計画においては、重点的な施策のひとつに教育環境の確保・充実を位置付けており、昭和30年代校舎の計画的な改築や、他の校舎の計画的修繕により長寿命化を図り、ニーズにあった新たな機能や適切な維持管理による教育施設環境の確保に努めてきた。

また、第3次学校教育ビジョンにおいても、安全・安心で、より良い教育環境づくりを重点施策に位置付け、教育環境の計画的な整備とともに、多様な学習活動への適応性、地域とともにある学校づくり等に配慮した施設整備をすすめてきた。

○年度別学校施設整備状況（主要建設事業決算額の推移）

※教育便覧より



○主要建設事業決算額の内訳

(単位：千円)

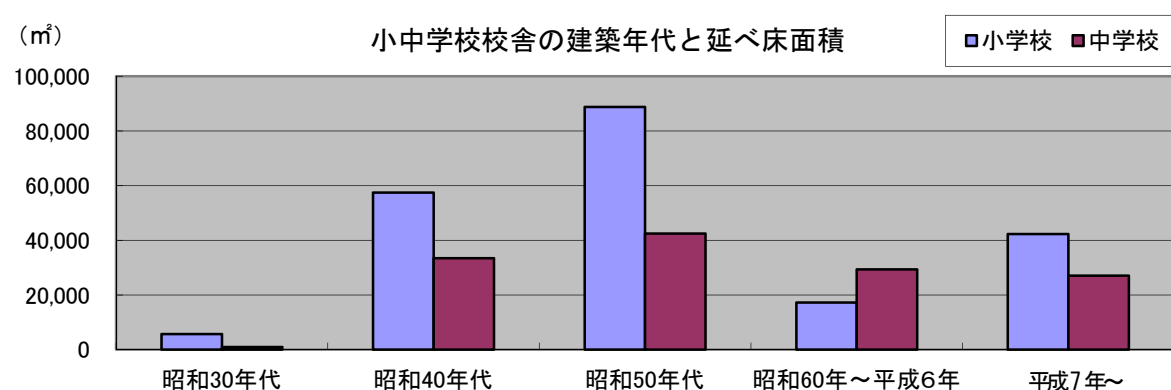
主な事業	学校	平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		
		校	事業費	校	事業費	校	事業費	校	事業費	校	事業費	校	事業費	校	事業費	
学校施設の長寿命化、施設機能の維持管理	校舎新增築	小	1	696,127	1	265,339	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
		中	-	-	-	-	1	301,572	1	525,937	1	175,700	1	969,098	1	350,704
	大規模改修	小	-	-	1	96,467	3	405,977	3	347,609	2	142,326	2	197,997	1	144,099
		中	-	-	-	-	-	-	-	-	1	189,251	2	278,619	1	190,915
	用地取得	小	1	3,000	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2,475
		中	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3,027	-	-
給食堂改修	小	2	57,903	-	-	102,021	-	-	1	52,821	1	40,146	3	61,884		
武道場建設	中	1	93,497	2	132,060	1	60,168	-	-	-	-	-	-	-		
新しい時代のニーズへの対応	空調整備事業	小	-	-	-	-	34	112,244	34	109,253	32	96,778	37	16,773		
		中	-	-	-	-	18	56,219	18	54,633	14	42,017	22	8,335		
	バリアフリー化改修	小	1	14,674	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
		中	1	18,809	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
安全・安心な教育環境の充実	吊天井崩落対策事業	小	-	-	6	105,520	-	-	-	5	68,013	-	-	-		
		中	-	-	-	-	10	52,930	10	82,975	-	-	-	-		
	校舎等耐震補強	小	1	2,427	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
		中	1	2,211	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		

## 2 学びの環境の充実に向けたこれまでの取り組みと今後の対応

### (1) 計画的な改築や修繕による学校施設の長寿命化、施設機能の維持管理

良好な学習環境の確保と学校施設の長寿命化を図るためには、校舎全体をリニューアルする大規模改修が効率的であることから、建築年が古い順に大規模改修を行ってきている。しかし、老朽化により、屋上防水改修などを先行して行わなければならない校舎が存在しており、大規模改修の前に、修繕等の対応を行っている現状がある。このような状況を鑑み、施設の老朽化状況の把握を行うとともに、それに基づく学校施設長寿命化計画を策定し、学校施設の改築、大規模改修、修繕の優先順位を勘案した計画的な施設整備を着実にすすめていく。

一方、小中学校の施設は、築 35 年で大規模改修、築 70 年で改築（建替）をすると想定した場合、十数年後から建物の更新が集中する時期を迎えることになり、財源確保が大きな課題となっている。今般、アセットマネジメント基金が創設されることから、中長期的な財政負担の低減及び平準化を図りながら、計画的な学校施設の更新を行っていく。また、施設機能を維持管理するための業務量も年々拡大することから、それらの対応についても併せて検討をすすめる必要がある。



### (2) 多様な教育活動や新しい時代のニーズへの対応

#### ① 普通教室への空調設備整備

これまでに例をみない程の猛暑等の発生により、良好な学習環境が保てないという課題を克服するため、普通教室への空調設備整備によって快適な学習環境を整える。

- ・整備内容：小中学校 59 校 全普通教室 (995 室)
- ・費用概算：設置費用 約 30 億円、ランニングコスト (13 年間) 約 10 億円
- ・スケジュール
 

平成 28 年～29 年度	現地調査、導入方式の比較検討 → P F I 方式による導入の方針を決定
平成 30 年度	P F I 方式による事業者選定、決定
平成 31 年度	設計・施工
平成 32 年度	供用開始予定

#### ② 中学校給食

未来のよっかいちを担う中学生の健やかな心と体を育む、安全・安心で魅力的な学校給食の実現のため、基本構想・基本計画の策定に取り組んでいる。県地区の農業センター地内に、集中的な衛生管理が可能な給食センター（1ヶ所）を整備し、食缶方式による全員喫食の完全給食の早期実施、一斉導入をめざしている。

- ・整備内容  
給食センター（1カ所）建設、各中学校受け入れ施設整備
- ・費用概算  
設置費用 約 61.6 億円、ランニングコスト（20 年間）約 128.4 億円  
※費用概算は、平成 30 年 8 月 7 日 四日市市中学校給食基本構想・基本計画について（中間まとめ）より抜粋
- ・スケジュール  
平成 29 年～30 年度 四日市市中学校給食基本構想・基本計画策定  
平成 31 年度～ 基本設計・実施設計

#### ③ トイレの洋式化・ドライ化

家庭のトイレやパブリックトイレの洋式便器化がすすみ、トイレが見違えるようにきれいになる中、学校トイレの整備は全国的に遅れている現状がある。

トイレの改善については、子どもや保護者からの要望も強く、学びの環境の充実の観点から優先度が高いことから、改築や大規模改修の際には、トイレの洋式化や床をモップ拭き清掃で清潔に維持できるようなドライ化に取り組むとともに、平成 33 年度中に、学校ごとの洋式化率 50%を目指して取り組みをすすめる。

- ・校舎トイレの洋式化（H26～H30 現在）  
洋式化率 46.4%
- ・体育館トイレの洋式化（H27～H30）  
男女各 1ヶ所以上の洋式便器設置完了



#### ④ ICT環境の整備

子どもたちの主体的・協働的な学びを深めるとともに、子どもたちの学習内容への興味関心や学習効果を高めるため、ICTの環境整備をすすめる。

##### ・市内小中学校のICT環境

○コンピュータ室用PC 2460台…各校41台

○普通教室用ICT機器（学校規模により傾斜配分）

電子黒板 195台…各校3～5台

プロジェクタセット 270台…各校1～6台

視聴覚モニタセット 67台…希望校・大規模校に1～4台

特別支援教育用タブレット端末 44台…中学校1～3台

##### ・スケジュール

平成28年度 中学校（英・数）デジタル教科書導入

平成29年度 中学校学習用コンピュータ機器を更新

PC室用PC902台、普通教室用プロジェクタセット110台

中学校特別支援教育用タブレット端末導入44台

電子黒板の一部をプロジェクタ型電子黒板に入替8台

小中学校の学習用コンピュータにプログラミングソフト

「スクラッチ」を導入

平成31年度以降 普通教室児童生徒用タブレット端末の導入をすすめる



プロジェクタワゴンセット

#### (3) 安全・安心な教育環境の充実

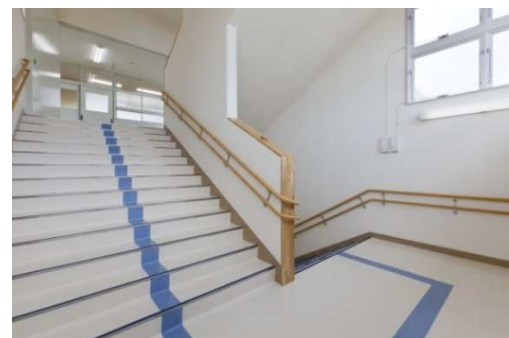
##### ① 学校施設のバリアフリー化

学校施設のバリアフリー化は、平成10年度から、昇降口や体育館の玄関などにスロープを設置し段差解消を図るとともに、多目的トイレ、階段手すりの設置などの整備工事を行い、平成23年度に計画整備を終了した。

今後は、整備を行った施設のバリアフリー状況を管理するとともに、誰もが使いやすい施設や表示など、様々なニーズの変化にも対応していく必要がある。

また、必要に応じた階段昇降機の配置やエレベーターの設置など、縦の移動への対策も含め、学校における更なるバリアフリー化に向けた基本的な考え方や基準について検討をすすめる。

なお、中学校においては、中学校給食の受入校施設整備に併せたエレベーター設置をすすめる。



##### ② 学校施設の防災機能の充実

災害時の子どもたちの安全を確保することは最優先事項である。

また、学校施設は、地域の防災拠点としての役割を担うことから、市危機管理部局と連携して、その機能を向上させる必要がある。

現在、校舎や体育館等の耐震化や天井材の落下防止対策等の整備は完了した。さらに、災害時の窓ガラス飛散防止対策では、普通教室と体育館が整備を完了し、特別教室について整備をすすめている。また、津波避難ビルに指定された学校においては、鍵ボックス※、屋上落下防止策、自家発電装置等を配備し、防災機能の充実を図っている。

今後は、市危機管理部局と連携し、避難所での生活が長期に及ぶ場合を想定した機能強化について、必要な施設整備の内容や優先度等の検討をさらに進める必要がある。



※鍵ボックス…ボックスの中に鍵が入っており、震度5弱以上の揺れで自動解錠する。施設管理者の到着を待たずに、誰でも解錠して施設に避難できる。

##### ③ 小学校給食室の衛生強化（食の安全確保）

平成11年より、給食室の汚染区域と非汚染区域を分ける衛生強化改修を行い、平成31年度に完了予定である。

近年の猛暑により、調理室の室温が非常に高くなり、食材の適温管理など調理中の衛生管理が難しくなっている。このような状況の下、衛生管理については運用面でなんとか対応しているものの、室温が非常に高く、火力を伴う調理作業であることから、集中力低下などによる人的ミスを防ぐうえでも、調理室の室温管理方法について、調査検討を行う必要がある。

